

## 『大鏡』「肝試し」テスト問題へー2

【一】本文について、設問に答えよ。

①四条大納言のかく何事もすぐれ、めでたくおはしますを、大入道殿、「いかでかかからむ。うらやましくもあるかな。②わが子どもの、③影だに踏むべくもあらぬこそ口惜しけれ。」と申させ給ひければ、中関白殿、粟田殿などは、げにさもとや思すらむと、恥づかしげなる御気色にて、ものものたまはぬに、この入道殿は、いと若くおはします御身にて、「影をば踏まで、面をや踏まぬ。」とこそ仰せられけれ。まことにこそ④さおはしますめれ。内大臣殿をだに、近くて《X》見奉り給はぬよ。

⑤さるべき人は、疾うより御心魂の猛く、御まもりもこはきなめりとおぼえ侍るは。

花山院の御時に、⑥五月下つ闇に、五月雨も過ぎて、いとおどろおどろしくかきたれ雨の降る夜、帝、さうさうしとや思し召しけむ、殿上に出でさせおはしまして遊びおはしますけるに、人々、物語申しなどし給うて、昔恐ろしかりけることどもなどに申しなり給へるに、「⑦今宵こそいとむつかしげなる夜なめれ。かく人がちなる⑧だに、気色おぼゆ。まして、もの離れたる所などいかならむ。さあらむ所に一人いなむや。」と仰せられけるに、「《X》まからじ。」とのみ申し給ひけるを、入道殿は、「いづくなりともまかりなむ。」と申し給ひければ、さるところおはします帝にて、「いと興あることなり。さらば行け。道隆は豊楽院、道兼は仁寿殿の塗籠、道長は大極殿へ行け。」と仰せられければ、⑨よその君たちは、便なきことをも奏してけるかなと思ふ。また、承らせ給へる殿ばらは、御気色変はりて、益なしと思したるに、入道殿は、⑩つゆさる御気色もなく、「私の従者をば具し候はじ。この陣の吉上まれ、滝口まれ、一人を、『昭慶門まで送れ。』と仰せ言賜べ。それより内には一人入り侍らむ。」と申し給へば、「証なきこと。」と仰せらるるに、「げに。」とて、御手箱に置かせ給へる小刀申して立ち給ひぬ。いま二所も、苦む苦む、⑪おのおのおはさうじぬ。

問一 次の語句の読みを、ひらがな（現代仮名遣い）で答えよ。

①五月雨 ②殿上

問二 傍線部①の人物の姓名を漢字で答えよ。

問三 傍線部②について

(1) (ここでは具体的に「i中関白殿」「ii粟田殿」「iii入道殿」を指示している。各々の姓名を漢字で書け。

(2) (1)の父親を本文から四字で抜き出せ。

(3) (2)の人物の姓名を漢字で答えよ。

問四 傍線部③の解釈として、最も適切なものは次のうちどれか。

ア 子どもたちが才能だけで「四条大納言」に及ばないのは言及するべきでない。

イ 子どもたちが芸能の分野で「四条大納言」に齒が立たないのは残念なことだ。

ウ 子どもたちが「四条大納言」の影を踏んでしまえば罰が課せられるであろう。

エ 子どもたちが「四条大納言」の姿を見たらこの上なく落胆してしまうだろう。

問五 傍線部④が指示している内容を十三字（句読点を字数に含む）で探して、はじめと終わりの三字ずつを書け。

問六 《X》に共通して入るべきひらがな一字を書け。

問七 傍線部⑤は具体的に誰を指示しているか。次の選択肢より選び記号で答えよ。

ア 四条大納言 イ 大入道殿 ウ 中関白殿 エ 粟田殿 オ 入道殿